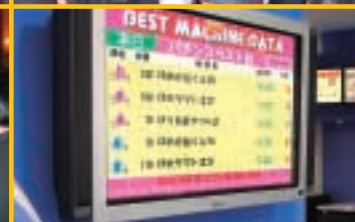


Top Interview …P1

遊技者のニーズを解析しホール経営、
新機種開発にフィードバックすることで、
事業の付加価値を高め、シェア拡大をはかります。

ダイコク電機最前線 **Fade in** …P5

- 100%出資子会社 DIXEO株式会社設立
 - 新製品発表展示会&セミナー開催
C-SIS Innovation「新基準機・C-SIS」新時代への革新
 - ダイコク電機戦略情報システム
「DK-SIS」がリニューアル
- 営業のご報告 …P7





代表取締役社長 栢森雅勝

遊技者のニーズを解析し ホール経営、新機種開発にフィードバックすることで、事業の付加価値を高め、シェア拡大をはかります。

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は昨年4月、東京証券取引所及び名古屋証券取引所の市場第一部に指定され、上場企業として新たな歴史を刻み始めています。社業としましては、パチンコホール用コンピュータをはじめとした情報システム機器の開発・製造・販売及びパチンコ・パチスロ遊技機用表示ユニット・制御ユニットなどの開発・製造・販売をおこない、日本を代表するレジャーのひとつであるパチンコ産業の健全な発展に貢献することで、各方面から高い評価をいただいております。

2004年度の事業をご報告するにあたり、パチンコ市場や業界を取り巻く環境、そのなかでの当社の取り組みなどについて、今年4月より代表取締役社長に就任しました栢森雅勝からお話させていただきます。

●パチンコ業界の市場環境……

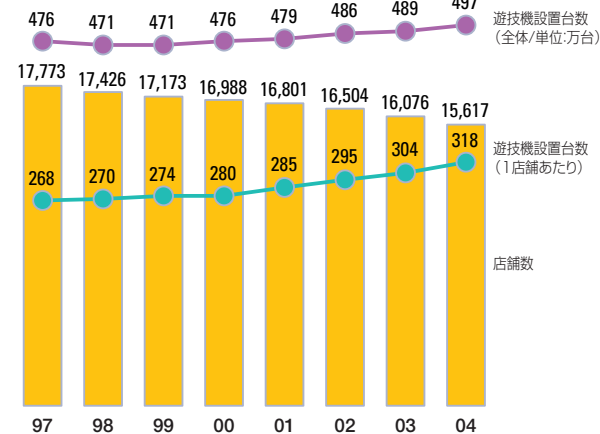
Q レジャー産業の中核を担うパチンコも個人消費の停滞による影響などがあると思われませんが、現状はいかがですか。

栢森—パチンコ市場は29.6兆円と言われ、余暇市場全体の約3割を担っていますが、個人消費の低迷の影響などで遊技人口は減少しています。また、昨年7月から「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則」と「遊技機の認定及び型式の検定等に関する規則」の新規則が施行され、パチンコ遊技機では新規則に準拠したゲーム性豊かな新機種が市場投入され、遊技機の入替が増加しました。パチスロ遊技機では新たな認定

がなく、旧基準機のみ動きとなりました。

全国のパチンコ店舗数で見ますと03年から459店舗減少して15,617店舗ですが、パチンコ・パチスロ遊技機設置台数は4,969,156台で77,212台の増加となり、店舗の大型化が加速しています。

●パチンコ店舗数及びパチンコ・パチスロ遊技機設置台数の推移



調査資料の出处:「平成16年における風俗警察の現状について」(2004年12月末日現在)

Q 新規則の施行により、業界全体はどのような方向に進んでいき、今後の市場動向にどのような影響を与えとお考えですか。

栢森—パチンコは、「衣・食・住」の次にくる巨大な娯楽市場で、旅行のように遠出をしたり、スポーツなどのように高価な遊技道具を揃える必要もなく、近所で手軽に楽しめるレジャーです。中長期で見ると団塊世代のリタイアによる需要などが今後立ち

あがってくることもあり、業界全体で高齢者向けのサービスを拡充していけば需要拡大の余地は大きいと考えています。

また、パチンコ業界はアミューズメント市場ですので、映画やゲームソフト業界と同じようにヒット機種が出ることでマーケットは拡大してきます。新規則の施行によりバリエーション豊富なパチンコ遊技機が投入されることで、ヒット機が登場しやすい土壌ができ、市場拡大の期待も高まっています。

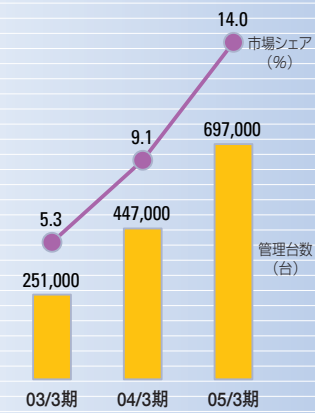
●ダイコク電機の市場戦略……

Q 主な業務の内容と当期の概況について教えてください。

栢森—当社はパチンコ遊技機を作るメーカーでもなく、ホールの経営もおこなっておりません。主な事業は2つあり、1つはパチンコホール向けのコンピュータシステムの開発・製造・販売です。当期は、遊技機を管理するホールコンピューティングシステム「C」とホールの経営力を支援する戦略情報システム「DK-SIS」の融合を進め、遊技機の分析力強化に取り組み、顧客から高い評価をいただきました。また、情報公開システムのプレジャービジョンなどの納入も順調に進み、業績は好調に推移しました。

2つめはパチンコ・パチスロ製造メーカーへの遊技機用

●ホールコンピューティングシステム「C」の遊技機管理台数の推移

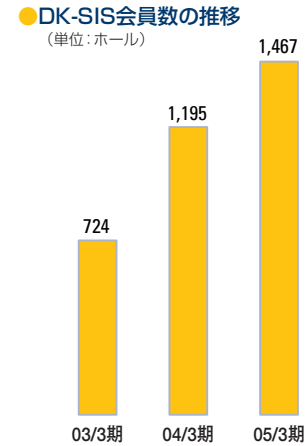


表示ユニットや制御ユニットの開発・製造・販売です。当期は表示ユニットで45.1万台、制御ユニットで11.3万台を販売し順調に推移しました。

● **ダイコク電機の業界における強みと戦略についてはどのようにお考えですか。**

栢森—パチンコ業界のビジネスは、パチンコ・パチスロの製造メーカーが遊技機を作り、ホールに納入し、遊技者(ファン)がホールに集まり、パチンコ玉(メダル)を借りて遊技するという商流です。しかし、ファンのニーズがホールやメーカー側にフィードバックされ、機種開発やホール経営に反映される流れがありません。当社は創業当時からファンのニーズを収集し解析することをビジネスの原点として、ファンが喜び満足する情報を機種開発やホール経営改善策としてメーカーやホールに提案していくことをビジネスとしてまいりました。ホール経営で大切なのは、正確で適切な遊技機の管理です。時間単位で大きく変動する出玉情報などを来店したファンに向けてリアルタイムに情報発信し、ファンとの信頼関係を構築して、安心して遊技を楽しめるホール環境を構築することが大切なのです。そのため、当社のホールコンピューティングシステム「C」を活用し、ファンとホールを繋ぐ情報端末機器を整備することが有効になります。

また、ホールの経営を支援するシステムとして、戦略情報システム「DK-SIS」があります。これは、全国の有力ホールと当社のホストコンピュータをネットワークで結び、日々の店舗営業データを収集し、分析、加工後、フィードバックするシステムです。これにより、ホールは自店の情報だけでなく全国のホールで、



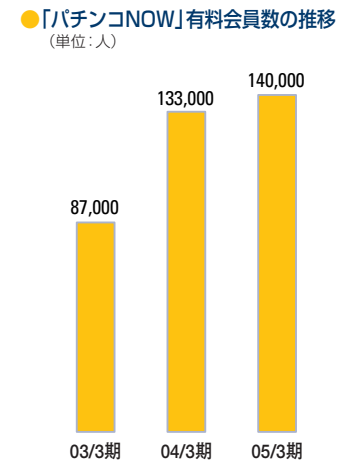
の機種が何時間稼動したかなどを詳しく分析でき、機種の人気の変動や入替時期の判断がより客観的にできるようになります。

当社はこれらのシステムをホール経営者に広く浸透させるために2月に「C-SIS Innovation」と題した新製品発表展示会&セミナーを全国4会場で開催し2,517名(前年比+693名)の方にご参加いただきました。

パチンコ・パチスロ遊技機製造メーカーに対しては「DK-SIS」を活用して、人気機種の傾向分析をおこない、それに基づいた仕様や遊技性を表示ユニットや制御ユニットに盛り込み、遊技機メーカーに提案しております。

● **ファン向けの情報コンテンツ事業についてはいかがですか。**

栢森—当社はファン層の拡大こそが業界全体の発展につながると考えており、ファンにホールの情報をお伝えする事業にも取り組んでいます。その中心となるのが、携帯やPCのサイト「パチンコNOW」の運営です。全国有力ホールの出玉情報やホールの最新情報をリアルタイムで遊技者に提供することで、ホールの集客力向上を支援しています。この情報コンテンツ事業をより強化し、日々変動が激しいホール情報に迅速に対応できるコンテンツを発信していくため、4月より事業を分社化し、今後ともコンテンツの充実を推進していきます。また、2月に株式会社テレビワールドが運営し、SKY PerfecTV!で放映されている『全日本「パチンコ・パチスロ」情報局!』の営業権を譲り受け、パチンコ・パチスロファンにとって価値のある映像コンテンツを配信し、さらなるファン層の拡大をはかっています。



● **中長期におけるビジョンと戦略……………**

● **社長就任にあたり抱負と今後の事業ビジョンについてお聞かせください。**

栢森—当社は創業時から、市場を変革してきた開発型企業です。ホールコンピューティングシステム「C」、戦略情報システム「DK-SIS」など革新的な商品を投入することにより市場を改革し、活性化させることで成長してきました。

企業には個人と組織が存在しますが、市場を変えられる新しいシステムや製品を開発していくためには個人の能力や発想力に頼る部分が多いと感じています。そしてその発想を商品化してPRし、普及させていくためには組織力が重要となります。個人の能力の向上と組織力の強化を両軸ではかり、ホールやメーカーに斬新な提案をしていくことで、今後とも成長を続けてまいります。

● **05年度の取り組みと中長期的な戦略と見通しについて、教えてください。**

栢森—2つの事業部門のうち情報システム事業では、ホールコンピューティングシステム「C」と戦略情報システム「DK-SIS」の一体化をさらに進めていくことで、新基準機時代の市場変化に対応したホール経営の質的向上を提案していきます。また、ファンとホールを繋ぐ情報端末機器の納入を推進し、ファンとホールと当社を結ぶトータルネットワークシステムをアピールすることでシェアアップをはかっていきます。メンテナンス体制の強化も引き続き推進していきます。

もうひとつの制御システム事業では、「DK-SIS」や情報システム事業と連携しファンの傾向を分析することでニーズに合った開発体制を強化していきます。

当社は今後の遊技性の高い機種に対応していくためにゲームの企画・開発会社である、元気株式会社と3月に資本・業務提携しました。これにより開発担当部署である表参道デザインスタジオでは、人員の強化と元気株式会社との連携によるメリットを生かし、開発スピードの向上と機種数の増大をはかっていきます。



● **コンプライアンス(企業倫理)の方針と実践についてお聞かせください。**

栢森—当社はステークホルダーからの信頼こそが、企業の継続的発展につながると思っています。それを実現させていくために、コンプライアンス委員会を設置し、社内外のホットラインを整備し、全役員・社員が法令を遵守することはもとより、社会規範を尊重し、より高い倫理観をもった行動の徹底に取り組んでいます。コンプライアンスの実践では、賞罰による管理を強化するのではなく、1人ひとりの自己啓発力を高め、自律的にそれぞれの部署でコンプライアンスサロンを開いて、各部署で内在するリスク要因を抽出し、事故の未然防止を実践していきます。

企業の事業活動と倫理活動という2つのエネルギーをステークホルダーの信頼獲得というベクトルで一致させていくことで、今後とも企業品質の向上を目指した経営に邁進してまいります。

100%出資子会社 DIXEO株式会社設立



パチンコNOW i

パチンコNOW TV2



パチンコNOW PC



「C-SIS Innovation」 開催



| 来場者数 | (昨年比) |
|-------------|----------------|
| 名古屋会場 | 446名 (+170名) |
| 福岡会場 | 392名 (+119名) |
| 大阪会場 | 532名 (+211名) |
| 東京会場(2日間合計) | 1,147名 (+193名) |
| 合計(4会場・5日間) | 2,517名 (+693名) |

昨年を大幅に上回る多くの方々にご来場いただきました。

当社はファン層の拡大こそが業界全体の発展につながるという信念により、パチンコ・パチスロファン向け情報提供のコンテンツ事業を分社化し、2005年4月1日DIXEO株式会社を設立しました。DIXEO株式会社は、ファンの思いに応える「パチンコNOW」シリーズと、ファンとホールを結ぶプラットフォーム「DELTANET」を運営しています。

「パチンコNOW」シリーズは、NTTドコモ、au、ボーダフォンの3キャリア公式サイトに加え、パソコンに対応した「パチンコNOW PC」、そして全国18局で放映中のパチンコ情報TV番組「パチンコNOW TV2」などを提供し、各メディアが持つデータ、文字、映像というそれぞれのコンテンツを最大限に活用し、効果的なメディアミックスをおこなっています。

「DELTANET」は、パチンコ・パチスロファンとパチンコホールを結ぶサーバシステムが提供するサービスの総称です。「DELTANET」を通じておこなわれる様々な新しい情報、技術などを幅広く活用して、パチンコ・パチスロファンを拡大する新たなサービス展開をプロデュースしていきます。

パチンコ業界において、メーカー・ホール・ファンを結びつけ、そこから生まれる付加価値を最大化させるために、今後はDKグループとして常に進化を続けたいと考えています。



DIXEO株式会社

事業内容：パチンコ・パチスロファン向け情報コンテンツの提供等
 設立年月日：平成17年4月1日
 所在地：東京都港区北青山三丁目5番17号 はる木ビル
 代表者：代表取締役社長 稲森秀行
 主要取引先：NTTドコモ、au、ボーダフォン他
 株主及び持株比率：ダイコク電機株式会社 100%

C-SIS Innovation「新基準機・C-SIS」新時代への革新

2005年2月8日名古屋会場を皮切りに福岡、大阪、東京の全国4会場、のべ5日間に渡り「新製品発表展示会&セミナー」を開催いたしました。

パチンコ業界の注目は、昨年7月の新規則施行により登場した新基準機をとりまく現状です。当社はセミナー、展示会ともにこのテーマを意識した提案をおこないました。ホール経営者・関係者からも大きな注目を集めている話題だけに、昨年を大幅に上回る大勢の方々にご来場いただきました。注目の新製品「インフォメーションマルチ」と「プレジャービジョン PV-55 II」をメインとした展示会場では、新製品のデモンストレーションや、注目の新基準機を具体的にシミュレーションする実践活用型ミニ講座など、当社の製品を実際の営業に結びつけた演出が好評を博し、効果的な販促活動ができました。展示会後も継続した営業活動をおこない、受注を順調に伸ばしております。当社は今後とも今回の成果を次へとつなげていこう、さらなる製品開発・営業活動を進めてまいります。

●セミナー

当社コンサルタントプロモーションチームによるセミナーは

第一部「新基準機は市場の期待に込めているのか」

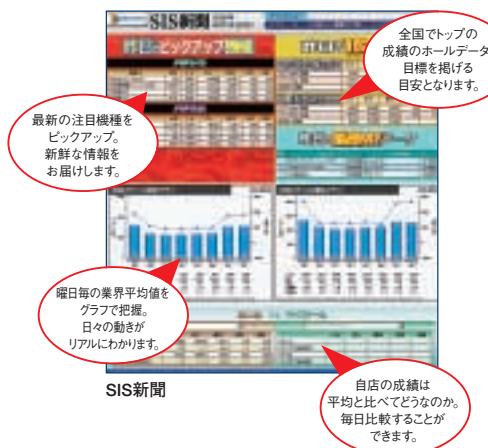
第二部「新基準機“価値=勝ち”のシナリオとは」

の2部構成でおこなわれました。

昨年11月の新基準機登場以来の動向を当社DK-SIS導入店の傾向を分析しながら考察。新基準機の動向という業界が注目するテーマに、役員以上となった熱心な受講者から多くの反響をいただきました。



ダイコク電機戦略情報システム 「DK-SIS」がさらにパワーアップ 4月大幅リニューアル



最新の注目機種をピックアップ。新鮮な情報をお届けします。

全国でトップの成績のホールデータ。目標を掲げる目安となります。

曜日毎の業界平均値をグラフで把握。日々の動きがリアルにわかります。

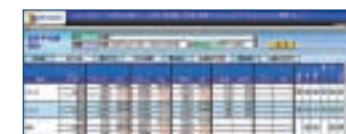
自店の成績は平均と比べてどうなのか。毎日比較することができます。

SIS新聞

1989年にサービスを開始した戦略情報システム「DK-SIS」も今年で16年目を迎えます。DK-SISとは、全国の有力パチンコホールとダイコク電機のホストコンピュータをネットワークでつなぎ、日々の営業データを収集・分析・加工し、フィードバックすることで新たな経営戦略の構築を可能にするものです。会員数も、この3年間で724ホール(2003.3末)→1,195ホール(2004.3末)→1,467ホール(2005.3末)と順調に推移しております。

今回のリニューアルの目玉は、「SIS新聞」です。DK-SISのホームページはこれまで週1度の更新でしたが、このSIS新聞は、いち早く新データや業界データを提供すべく毎日更新しております。日ごとの業界平均値グラフや自店の成績も一瞥で見ることができ、ホール経営を大きくサポートするメニューとなっております。

これからもDK-SISは、16年の歴史で培ったノウハウと約45万台のデータを糧に、業界唯一の指標データとして価値あるコンテンツを提供してまいります。そしてホールコンピューティングシステム「C」との融合による新たな分析メニューの提供や、全国セミナーの展開など、お客様の信頼と期待に応えた製品づくりとサービス提供に努めてまいります。



SIS業界平均値 平日・休日の業界動向が把握できます。



New Products 新製品情報 ファンにアピールする情報公開機器2製品をリリース!

遊技中のファンにアピール!

プレジャービジョン PV-55 II

パチンコ遊技客は、台に座って遊技している時間がほとんど。遊技中のファンにもっと伝えたい、応えたい。そんな思いから、よりファンが見たくなる、さわりたいようなデータを追求して、プレジャービジョンが生まれ変わりました。

過去のデータから本日のデータまで出玉推移グラフや大当たり発生履歴、ベスト台データなどデータ画面もグレードアップ。さらに会員カードを挿入することで、個人成績や収支手帳が確認でき、ファンのニーズに応えます。また、座ったままコーヒーのオーダーができるサービスなど利便性と遊技稼働率を追求する機能を搭載しました。画面上にお店からの情報がテロップで流れたり、動画でインフォメーションが流れたりと、アピールチャンス逃さず、ファンに情報がダイレクトに伝わります。プレジャービジョン PV-55 IIは、ファンが求める情報とファンに伝えたい情報を効果的に結びつけた新しい情報公開ツールです。

エントランスから階段から…迫力画面でファンにアピール!

インフォメーションマルチ

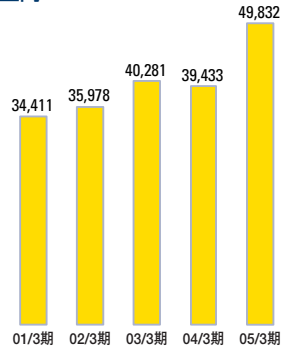
情報提供は、まずそこに情報があることをファンに知らせるところから始まります。インフォメーションマルチは、50インチの大型プラズマビジョンを連結させ、インパクトのある多彩な情報を提供します。ランキングなどの出玉情報からイベント案内、TV&DVD映像など様々なコンテンツも複数のディスプレイがあれば一度に提供することができます。迫力ある大画面ですから、アイキャッチは抜群。縦横2連結から最大16連結まで、19インチの液晶連結パターンもご用意し、ホールのスペースにあわせて有効に設置することができます。エントランス、計数機コーナー、休憩スペース、階段などホールのあらゆる場所からアピールチャンスを逃しません。



主要財務データ

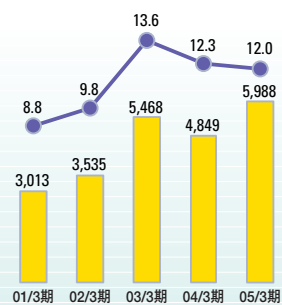
Key Financial Data

●売上高 (単位:百万円)



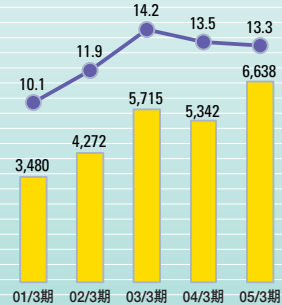
●営業利益 (単位:百万円)

●売上高営業利益率 (単位:%)



●経常利益 (単位:百万円)

●売上高経常利益率 (単位:%)



当期の取り組みと成果

当社が携わるパチンコ業界は、個人消費の低迷から遊技人口の減少傾向がさらに顕在化してきております。また、警察庁生活安全局生活環境課発表の「平成16年における風俗警察の現状について」によると、パチンコホール数は、2003年に比べて459店舗減少し15,617店舗となり、1995年をピークに減少し続けております。パチンコホールの遊技機設置台数は4,969,156台で、店舗数の減少とは逆に77,212台増加しており、1店舗あたりの遊技機設置台数は318.2台と平均で13.9台増加し、店舗の大型化傾向がますます顕著になってきております。

2004年7月に警察庁より「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則」及び「遊技機の認定及び型式の検定等に関する規則」の新規則が施行されました。その結果、新規則に基づくパチンコ遊技機が同年11月より市場に登場し始め、パチンコホールにおける遊技機の入替が増加しました。

このような状況のもと、情報システム事業では、勝ち組企業へのホールコンピューティングシステム「C」や情報公開システムのプレジャービジョンなどの納入が順調に進み、制御システム事業では、表示ユニットにおいてデザインの優位性を打ち出し、売上高、経常利益は計画を大幅に上回りました。

この結果、売上高498億32百万円(前期比26.4%増)、営業利益59億88百万円(同23.5%増)、経常利益66億38百万円(同24.3%増)、当期純利益34億84百万円(同13.6%増)となりました。

対処すべき課題

<情報システム事業>

◆ホールコンピューティングシステム「C」と「DK-SIS」の融合によるさらなるブランド力向上

「C」と業界唯一の「DK-SIS」の融合により、新基準機時代の市場変化に対応したさまざまな提案を継続していくことで、ブランド力の向上をはかります。

◆トータルネットワークシステム提案によるシェアアップ

パチンコファン・パチンコホール・当社を結ぶネットワークを強化することで質の高いサービスを提供します。なかでも、パチンコファンに対しては、より楽しく遊技していただくための「情報提供」を、パチンコホールに対しては「マネージメント支援」を実現し、シェアアップにつなげます。

◆メンテナンス体制充実への取り組み

前期に引き続き、メンテナンス体制の強化に努め、システム化、効率化へ向けた社内教育体制を順次構築します。

<制御システム事業>

◆開発力強化による機種数の増大

研究開発チームの新設と表参道デザインスタジオのさらなる体制強化により、開発力と提案力を高め開発機種数の増大をはかります。

研究開発チームでは、製品優位性を打ち出し、新素材・新技術を駆使した新しいスペックや機構の研究に取り組みます。また、表参道デザインスタジオでは、人員体制の強化と業務提携によるメリットを最大限に生かし、開発スピードの向上と開発機種数の増大をはかります。

◆新規顧客の開拓

「DK-SIS」や情報システム事業との連携を強化することでブランド力を向上させ、提案力を高めていきます。そのような当社の強みを生かした機種開発の提案を新規顧客獲得に向け積極的にこなします。

◆顧客から信頼される製造・物流体制の構築

製品の安定した品質、適正な価格、要求に合った納期を実現することによって、安心・安全・信頼で競合他社との差別化をはかります。

次期の見通し

パチンコ業界は個人消費の低迷により厳しい状況が続いております。パチンコホールでは多様なパチンコ遊技機(新基準機)の登場により、遊技機管理がますます重要となり、管理の成否によって企業間格差はさらに顕著になると思われまます。

このような環境下、引き続き当社は、情報システム事業におきましては、ホールコンピューティングシステム「C」と戦略情報システム「DK-SIS」の融合により強化された遊技機分析による遊技機の有効活用を提案し、制御システム事業におきましては、魅力のあるパチンコ遊技機の提案・開発をさらに強化してまいります。

2006年3月期の業績見通しにつきましては、情報システム事業は、情報コンテンツ事業の分社化により売上高258億円、制御システム事業は商品販売の減少により売上高210億円、全社売上高は468億円(前期比6.1%減)、経常利益56億円(同15.6%減)、当期純利益30億円(同13.9%減)を見込んでおります。

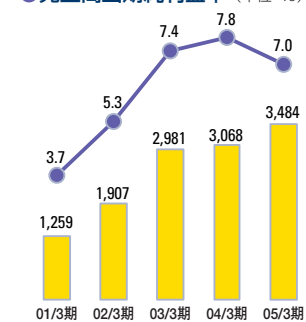
また、2005年4月1日付で情報コンテンツ事業を分社化したことにより、次期より連結決算を実施する予定です。連結における業績見通しは、売上高473億5千万円、経常利益57億円、当期純利益30億5千万円を見込んでおります。

業績の見通しに関する注意事項

本冊子に記載されている市場予測や業績見通しは、当社の経営陣が現在有効な情報に基づき判断したもので、その実現には潜在的リスクや不確実性を含んでおり、さらに業績に影響を与える要因はこれに限定されるものではありません。従いまして、諸要因の変化により実際の業績は記載事項と大きく異なる結果となる可能性があることをあらかじめご承知おきください。

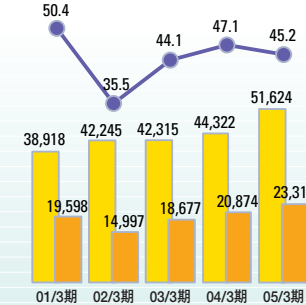
●当期純利益 (単位:百万円)

●売上高当期純利益率 (単位:%)



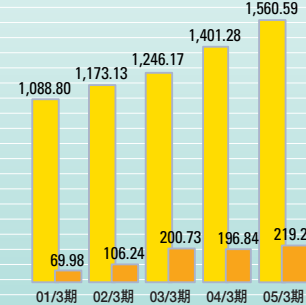
●総資産 ●株主資本 (単位:百万円)

●株主資本比率 (単位:%)

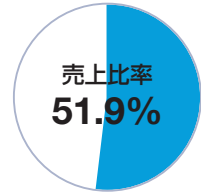


●一株当たり株主資本 (単位:円)

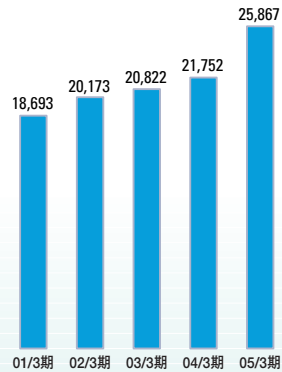
●一株当たり当期純利益 (単位:円)



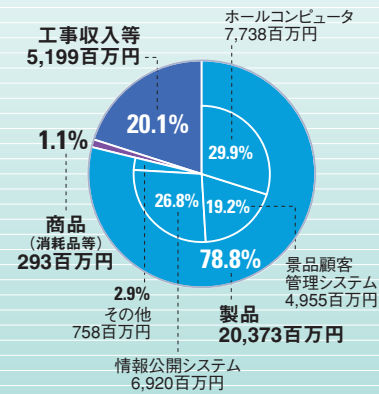
情報システム事業



●情報システム事業売上高
(単位: 百万円)



●情報システム事業売上高構成比
(百万円未満は切捨て)



当期におけるパチンコ業界は、2004年7月に新規則が施行され、パチンコ遊技機は、新たな基準に基づく多様な機種が登場することとなり、パチンコファンにとっては遊技機選びの選択肢が増えましたが、パチンコホールにとってはパチンコ遊技機管理の複雑化という新たな課題を生み出しました。当社は、こうした状況をあらかじめ予測し、ホールコンピューティングシステム「C」と戦略情報システム「DK-SIS」の融合をすすめ、パチンコ遊技機の分析力強化に取り組んだ結果、既存顧客はもとより、新規顧客からも高い評価を得ました。さらに情報公開システムについても、差別化提案を積極的におこなうことで好調な業績を維持しました。

このような取り組みの集大成として、2005年2月に、「C-SIS Innovation」と題して全国4会場で新製品発表展示会&セミナーを開催したところ、参加企業数876社、入場者数2,517名と当初の予想を大きく上回り、各会場とも大盛況を博しました。

以上の結果、当部門の売上高は258億67百万円(前期比18.9%増)となりました。



ホールコンピューティングシステム「C」

パチンコホールの台管理・景品管理・顧客管理・映像管理・情報公開システムの総合営業管理をおこない、パチンコファンの来店誘発の演出とセキュリティ強化に着目したホールコンピュータシステムです。台データ管理機能は従来の基本性能を継承し、新しく柔軟性と拡張性を実現しました。

戦略情報システム「DK-SIS」

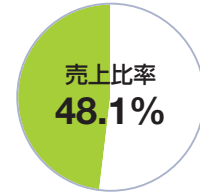
当社ホールコンピュータとインターネットを駆使し、SIS会員パチンコホールとダイコク電機との間に高度なネットワークを構築し、日々の営業データを収集し、分析、加工後、付加価値の高い情報を提供する顧客支援システムです。



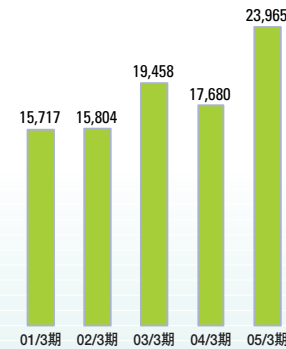
●ショールーム SITE in Tokyo



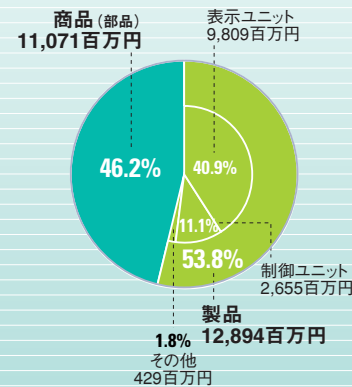
制御システム事業



●制御システム事業売上高
(単位: 百万円)



●制御システム事業売上高構成比
(百万円未満は切捨て)



当期における遊技機市場は、2004年7月の新規則施行により、パチンコ遊技機に関してはバリエーション豊かな遊技機の開発が可能になり、多くの旧基準機が新基準機に置き換わりましたが、パチスロ遊技機に関しては旧基準機のみ動きとなりました。

遊技機検査機関である財団法人保安電子通信技術協会への申請・適合件数は、同協会ホームページに掲載の統計資料によると、パチンコ遊技機は申請件数が655機種(前期比88機種減)、適合件数が482機種(旧基準機207機種、新基準機275機種)(同159機種減)となりました。また、パチスロ遊技機は申請件数が270機種(前期比127機種減)、適合件数が102機種(旧基準機102機種、新基準機0機種)(同123機種減)となりました。

このような市場環境のなか、当事業部門は、制御ユニットで11.3万台(前期比2.7%減)の出荷数量となりましたが、表示ユニットでは45.1万台(同142.5%増)の出荷数量と前事業年度を大きく上回り、商品販売においても110億71百万円(同39.8%増)と順調に推移しました。その結果、当部門の売上高は239億65百万円(同35.5%増)となりました。



表示ユニット

パチンコ遊技機のゲーム内容を表現する部分で、ハードウェアとそれに搭載されるプログラムから構成されます。



制御ユニット

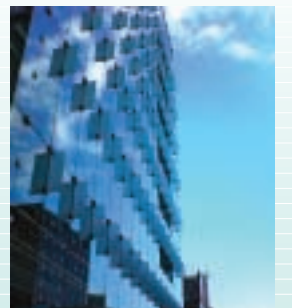
基本動作をつかさどるハードウェアとそれに搭載されるプログラムから構成され、パチンコ遊技機の心臓部といえます。



商品 (部品)

パチンコ遊技機に使用される液晶パネル、スイッチ、ソレノイドなどのオートメーションパーツの仕入販売をしております。

●表参道デザインスタジオ



▲開発風景

貸借対照表 (要旨)

| 科 目 | 第32期 2005年3月31日現在 | 第31期 2004年3月31日現在 |
|-----------------|----------------------|----------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 34,192 | 27,525 |
| 固定資産 | 17,431 | 16,797 |
| 有形固定資産 | 7,961 | 7,986 |
| 無形固定資産 | 1,838 | 1,582 |
| 投資その他の資産 | 7,631 | 7,228 |
| 資産合計 | 51,624 | 44,322 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 24,761 | 18,260 |
| 固定負債 | 3,546 | 5,187 |
| 負債合計 | 28,308 | 23,448 |
| 資本の部 | | |
| 資本金 | 674 | 674 |
| 資本剰余金 | 680 | 680 |
| 利益剰余金 | 21,955 | 19,515 |
| その他有価証券評価差額金 | 6 | 5 |
| 自己株式 | △ 0 | — |
| 資本合計 | 23,315 | 20,874 |
| 負債及び資本合計 | 51,624 | 44,322 |

(単位:百万円、百万円未満は切捨て)

●資産・負債・資本の状況

総資産は、前期末と比べ73億1百万円増加の516億24百万円となりました。これは現預金及び売上債権などの流動資産が大幅に増加したことによります。

負債は、前期末と比べ48億60百万円増加の283億8百万円となりました。これは借入金は減少しましたが仕入債務が大幅に増加したことによります。

株主資本は、前期末と比べ24億40百万円増加の233億15百万円となりました。これは利益剰余金の増加によるものであり、株主資本比率は前期末と比べ、負債の増加に伴い1.9ポイント減少の45.2%となりました。

損益計算書 (要旨)

| 科 目 | 第32期 2004年4月1日から 2005年3月31日まで | 第31期 2003年4月1日から 2004年3月31日まで |
|-------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 売上高 | 49,832 | 39,433 |
| 売上原価 | 33,315 | 26,058 |
| 売上総利益 | 16,517 | 13,374 |
| 販売費及び一般管理費 | 10,528 | 8,524 |
| 営業利益 | 5,988 | 4,849 |
| 営業外収益 | 814 | 694 |
| 営業外費用 | 164 | 202 |
| 経常利益 | 6,638 | 5,342 |
| 特別利益 | — | 2 |
| 特別損失 | 511 | 76 |
| 税引前当期純利益 | 6,126 | 5,268 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 3,196 | 2,030 |
| 法人税等調整額 | △ 554 | 170 |
| 当期純利益 | 3,484 | 3,068 |
| 前期繰越利益 | 1,562 | 1,383 |
| 中間配当額 | 147 | — |
| 当期末処分利益 | 4,899 | 4,451 |

(単位:百万円、百万円未満は切捨て)

●損益の状況

当期の売上高は、情報システム事業においては、ホールコンピューティングシステム「C」の販売が、前期以上に好調だったこと、また制御システム事業においては、新規則に基づく遊技機の登場に伴い、表示ユニット及び部品販売が大幅に増加した結果、前期に比べ103億99百万円増加の498億32百万円となりました。

売上原価率及び売上高営業利益率が前期と同等に推移したことにより、売上総利益は165億17百万円、営業利益は59億88百万円となりました。

また、当期は特別損失が前期に比べ4億35百万円増加の5億11百万円となっておりますが、それは会員権の法的手続きによる損失の計上が大きかったことによります。

利益処分

| 科 目 | 第32期 | 第31期 |
|-----------------|--------------|--------------|
| 当期末処分利益 | 4,899 | 4,451 |
| 任意積立金取崩額 | | |
| 特別償却準備金取崩額 | 7 | 7 |
| 計 | 4,907 | 4,459 |
| 利益処分額 | | |
| 利益配当金 | 887 | 739 |
| | 1株につき60円 | 1株につき50円 |
| | (普通配当30円) | (普通配当30円) |
| | (特別配当30円) | (記念配当20円) |
| 取締役賞与金 | 232 | 152 |
| 監査役賞与金 | 11 | 5 |
| 任意積立金 | | |
| 別途積立金 | 2,000 | 2,000 |
| 次期繰越利益 | 1,776 | 1,562 |

(単位:百万円、百万円未満は切捨て)

●配当金について

当社は、企業価値の増大をはかりながら、株主の皆さまに利益還元をはかることを経営の最重要課題と考え、事業環境や収益の状況、配当性向等を総合的に勘案し、安定配当をおこなうことを基本方針としております。

当期の利益配当金につきましては、2005年3月期における売上・利益とも増収増益となりましたことを勘案し、普通配当30円に特別配当30円を加えて1株につき60円とさせていただきます。

これにより中間配当金(1株につき10円)と合わせた当期の年間配当金は、70円となりました。

キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

| 科 目 | 第32期 2004年4月1日から 2005年3月31日まで | 第31期 2003年4月1日から 2004年3月31日まで |
|-------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 7,285 | 1,863 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 2,181 | △ 535 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 2,275 | △ 1,609 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | — | 6 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | 2,828 | △ 275 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 10,664 | 10,940 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 13,493 | 10,664 |

(単位:百万円、百万円未満は切捨て)

●キャッシュ・フローの状況

当期末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は前期末と比較し28億28百万円増加の134億93百万円となりました。

当期における営業活動の結果得られた資金は、前期と比較し54億22百万円増加の72億85百万円となりました。その主な要因は、たな卸資産が増加したにもかかわらず税引前当期純利益及び仕入債務が増加したことによります。

当期における投資活動の結果使用した資金は、前期と比較し16億45百万円増加の21億81百万円となりました。その主な要因は、固定資産の取得及び投資有価証券の取得によるものであります。

当期における財務活動の結果使用した資金は、前期と比較し6億65百万円増加の22億75百万円となりました。その主な要因は、借入金の返済額及び配当金の支払額が増加したことによります。

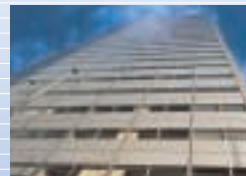
(2005年3月31日現在)

| | |
|-------|---|
| ●商号 | ダイコク電機株式会社 DAIKOKU DENKI CO., LTD. |
| ●創業 | 1964年12月 |
| ●設立 | 1973年 7月 |
| ●資本金 | 6億7千4百万円(発行済株式総数14,783,900株) |
| ●本社 | 名古屋市中村区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル2階 |
| ●従業員数 | 正社員数408名 準社員数60名 |
| ●事業内容 | パチンコホール向けコンピュータシステムの開発・製造・販売 パチンコ・パチスロ遊技機用ユニットの開発・製造・販売 |
| ●役員 | 取締役会長 小山 晴 久 代表取締役社長 栢 森 雅 勝 代表取締役副社長 栢 森 秀 行 代表取締役専務 栢 森 健 健 常務取締役 岩 根 節 雄 取締役 香 川 芳 夫 取締役 伊 藤 茂 年 取締役 平 原 正 義 取締役 山 下 陽 陽 取締役 堀 本 弘 弘 取締役 堀 田 昌 郎 取締役 國 保 徳 丸 常勤監査役 山 崎 健 二 郎 常勤監査役 伊 東 幹 夫 監査役 田 中 正 雄 監査役 敷 田 稔 稔 監査役 村 橋 泰 志 |

(注) 1. 上記役員構成は、2005年6月28日現在のものであります。

2. 取締役 堀田昌郎氏、國保徳丸氏は、商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役であります。

3. 監査役 田中正雄氏、敷田稔氏、村橋泰志氏は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。



本社



本部事業所

●事業所一覧

| | | |
|--------|-----------|---|
| 本 社 | 〒450-8640 | 名古屋市中村区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル2階 TEL(052)581-7111(代表) |
| 本部事業所 | 〒480-0395 | 春日井市坂下町1丁目875 TEL(0568)88-7111 |
| 高蔵寺事業所 | 〒487-0014 | 春日井市気噴町一丁目2番地 TEL(0568)51-7111 |
| 春日井事業所 | 〒480-0304 | 春日井市神屋町1番26 TEL(0568)88-7771 |

●拠点一覧 (2005年6月28日現在)

| | | |
|-------------|-----------|--|
| 北日本支店 | 〒980-0014 | 仙台市青葉区本町二丁目2番3号 鹿島広業ビル |
| ・札幌営業所 | 〒001-0011 | 札幌市北区北十一条西四丁目1番地44 ベルエアプラザ |
| ・盛岡出張所 | 〒020-0135 | 盛岡市大新町6番35号 アイビル大新町 |
| 関東支店 | 〒110-0005 | 東京都台東区上野七丁目2番10号 上野駅前第一生命ビル |
| ・茨城営業所 | 〒305-0032 | つくば市竹園二丁目2番地4 第2・ISSEIビル |
| ・北関東営業所 | 〒330-6022 | さいたま市中央区新都心11番地2 明治安田生命さいたま新都心L.A.タワー |
| ・新潟出張所 | 〒950-0953 | 新潟市大島209番地 |
| 中部支店 | 〒480-0304 | 春日井市神屋町1番26 |
| ・金沢出張所 | 〒920-0027 | 金沢市駅西新町3丁目9番26号 |
| ・松本出張所 | 〒390-0852 | 松本市大字島立399番地1 滴水ビル |
| 西日本支店 | 〒532-0003 | 大阪市淀川区宮原四丁目1番14号 住友生命新大阪北ビル |
| ・岡山営業所 | 〒700-0927 | 岡山市西古松一丁目1番26号 オム第IIビル |
| ・高松出張所 | 〒761-8071 | 高松市伏石町795番地1 丸忠IIIビル |
| 九州支店 | 〒812-0016 | 福岡市博多区博多駅南二丁目1番9号 ヤマエ博多駅南ビル |
| ・広島営業所 | 〒731-0138 | 広島市安佐南区祇園3丁目45番11号 |
| ・宮崎出張所 | 〒880-0801 | 宮崎市老松一丁目3番3号 松屋ビル |
| 表参道デザインスタジオ | 〒107-0061 | 東京都港区北青山三丁目3番11号 ルネ青山ビル |

●関連会社

DIXEO(ディクセオ)株式会社

(2005年3月31日現在)

●株式状況

会社が発行する株式の総数…………… 66,747,000株
発行済株式総数…………… 14,783,900株
株主数…………… 3,531名

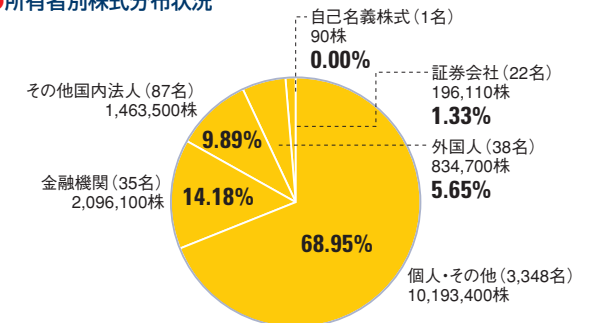
●大株主

| 株主名 | 持株数(株) | 出資比率(%) |
|---------------------------|-----------|---------|
| 栢 森 雅 勝 | 1,915,250 | 12.95 |
| 栢 森 秀 行 | 1,802,200 | 12.19 |
| 栢 森 健 健 | 1,800,700 | 12.18 |
| 財団法人栢森情報科学振興財団 | 750,000 | 5.07 |
| 栢 森 新 治 | 737,150 | 4.99 |
| 栢 森 隆 隆 | 712,500 | 4.82 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 671,000 | 4.54 |
| 栢 森 美 智 子 | 626,000 | 4.23 |
| ダイコク電機従業員持株会 | 422,200 | 2.86 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 275,400 | 1.86 |

●株価及び出来高の推移

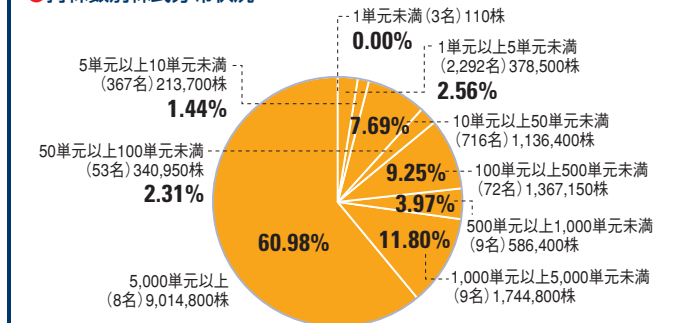


●所有者別株式分布状況



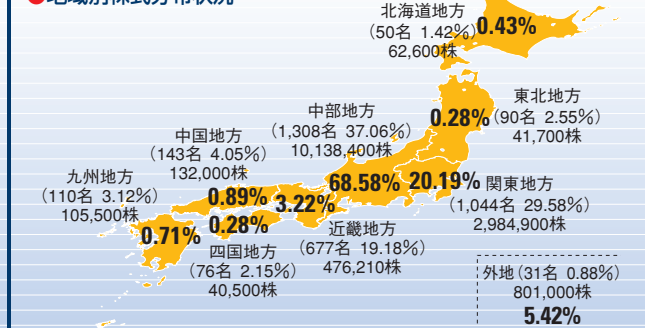
(注) その他国内法人には、証券保管振替機構名義株式1,000株を含みます。

●持株数別株式分布状況



(注) 証券保管振替機構名義株式1名1,000株、自己名義株式1名90株を含みません。

●地域別株式分布状況



(注) 証券保管振替機構名義株式1名1,000株、自己名義株式1名90株を含みません。

株主メモ

- **決算期** 3月31日
- **定時株主総会** 6月下旬
- **配当金受領株主確定日** 利益配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
- **基準日** 3月31日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
- **名義書換代理人** 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
- **同事務取扱場所** 〒460-8685
名古屋市中区栄三丁目15番33号
中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店証券代行部
TEL. (052)262-1520
- **同取次所** 中央三井信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
- **公告掲載新聞** 日本経済新聞
- **貸借対照表ならびに損益計算書の
ホームページアドレス** <http://www.daikoku.co.jp/investor/kessan.html>

〈お知らせ〉

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。



〒450-8640 名古屋市中村区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル2階

TEL(052)581-7111(代表)

ホームページ <http://www.daikoku.co.jp>